

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年5月16日(2013.5.16)

【公表番号】特表2012-522588(P2012-522588A)

【公表日】平成24年9月27日(2012.9.27)

【年通号数】公開・登録公報2012-039

【出願番号】特願2012-503675(P2012-503675)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/44

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月29日(2013.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脊柱における隣り合う椎骨の棘突起間に配置するためのインプラントであって、

第 1 の端部と、第 2 の端部と、前記第 1 の端部から前記第 2 の端部に延びる長手方向軸線とを有するスペーサであり、長手方向に延びる側壁を有するとともに、前記棘突起に当接して前記棘突起を離間関係に維持するようになっている上面および下面を有し、前記上面および前記下面が前記棘突起間の所定の最小間隔に対応する距離だけ離間されるようになっている、スペーサと、

隣り合う椎骨の前記棘突起とほぼ並行して位置するように前記長手方向軸線を横切って前記スペーサから突出する第 1 の延在部であり、上部および前記上部に対して外側に広げられた下部を有し、前記棘突起間の最大間隔を制限するために前記棘突起と係合可能である第 1 の延在部と、

を備えるインプラント。

【請求項 2】

前記第 1 の延在部の前記下部に少なくとも 1 つの留め具を更に備え、

広げられた前記下部は、前記少なくとも 1 つの留め具を小さいあるいは欠けた棘突起を有する骨に向けるようになっている、請求項 1 に記載のインプラント。

【請求項 3】

少なくとも 1 つの留め具を更に備え、

前記下部の前記広げられた部分は穴を有し、前記少なくとも 1 つの留め具が取り外し可能に前記穴に結合され、骨に係合するようになっている、請求項 1 に記載のインプラント

。

【請求項 4】

前記留め具が、骨用のねじを有する、請求項 3 に記載のインプラント。

【請求項 5】

前記少なくとも 1 つの留め具が仙骨に係合するようになっている、請求項 2 に記載のインプラント。

【請求項 6】

前記少なくとも 1 つの留め具がスパイクを有する、請求項 2 に記載のインプラント。

【請求項 7】

複数の留め具を更に備え、
前記複数の留め具の少なくとも1つは、前記下部の前記広げられた部分にあり、
前記複数の留め具の少なくとも1つは、前記上部にあり、
前記広げられた部分にある前記少なくとも1つの留め具は、前記上部にある前記少なくとも1つの留め具に対して傾いており平行でない、
請求項1に記載のインプラント。

【請求項8】

前記少なくとも1つの留め具は、前記少なくとも1つの留め具が前記下部の広げられた部分に対して垂直にならないように、前記第1の延在部の前記下部の広げられた部分に対して角度調整可能である、請求項2に記載のインプラント。

【請求項9】

前記上部および前記下部は、互いに対して前後にオフセットされ、ほぼZ形状のオフセットを規定する、請求項1に記載のインプラント。

【請求項10】

前記第1の延在部はねじ付き孔を有し、
前記スペーサは、左右に延びる長さ、と、上下に延びる高さ、とを有し、
前記スペーサは、
前記長さに沿って延びる円筒経路と、
前記円筒経路の後方に開放するスロットと、
前記スロットから延びるねじ付きシャフトを有する前記円筒経路に収容されるボルトと、
を備え、

前記第1の延在部は、前記ボルトを前記ねじ付き孔に螺合させることにより、前記スペーサに固定される、請求項1に記載のインプラント。

【請求項11】

前記第1の延在部に対向しており、前記第1の延在部の反対側にある隣り合う椎骨の前記棘突起とほぼ並行して位置するようになっている第2の延在部を更に備える、請求項1に記載のインプラント。

【請求項12】

前記第2の延在部は、前記スペーサと直接係合し、前記第1の延在部に向けてスペーサ上を並進する、請求項11に記載のインプラント。

【請求項13】

前記第2の延在部は、上部と下部を有し、前記下部は前記上部に対して広げられている、請求項11に記載のインプラント。

【請求項14】

脊柱における隣り合う椎骨の棘突起間に配置するためのインプラントであって、
第1の端部と、第2の端部と、前記第1の端部から前記第2の端部に延びる長手方向軸線とを有するスペーサであり、長手方向に延びる側壁を有するとともに、前記棘突起の近くにある上面および下面と、上椎骨から下椎骨への骨成長を可能にする骨成長通路を規定する前記上面の少なくとも1つの第1の開口および前記下面の少なくとも1つの第2の開口とを有し、前記上面および前記下面が前記棘突起間の所定の最小間隔に対応する距離だけ離間される、スペーサと、

上部と下部を有する前記スペーサに取り付けられた第1の延在部であり、前記上部は平面を規定し、前記下部は前記平面に対して非平面の広げられた部分を有し、前記第1の延在部は前記棘突起間の最大間隔を制限するために前記棘突起と係合可能である、第1の延在部と、

上部と下部を有する前記スペーサに取り付けられた第2の延在部であり、前記上部は平面を規定し、前記下部は前記平面に対して非平面の広げられた部分を有し、前記第2の延在部は前記棘突起間の最大間隔を制限するために前記棘突起と係合可能である、第2の延在部と、

を備え、

前記第 2 の延在部の前記広げられた部分は、前記第 1 の延在部の前記広げられた部分から離れる方向に延びる、インプラント。

【請求項 1 5】

前記第 1 の延在部の前記広げられた部分上の少なくとも 1 つの留め具と、前記第 2 の延在部の前記広げられた部分上の少なくとも 1 つの留め具と、を更に備え、前記広げられた部分は前記少なくとも 1 つの留め具の両方を骨に向けるようになっている、請求項 1 4 に記載のインプラント。

【請求項 1 6】

前記スペーサを通過する組織成長を促して前記隣り合う椎骨を融合するために前記第 1 および第 2 の開口を接続する少なくとも 1 つの横通路を更に備える、請求項 1 4 に記載のインプラント。

【請求項 1 7】

前記スペーサはほぼ中空であり、中空の前記スペーサにより前記横通路が形成される、請求項 1 6 に記載のインプラント。

【請求項 1 8】

前記第 1 の延在部の前記広げられた部分上の前記少なくとも 1 つの留め具と、前記第 2 の延在部の前記広げられた部分上の前記少なくとも 1 つの留め具は、集まっている、請求項 1 5 に記載のインプラント。

【請求項 1 9】

前記第 1 および第 2 の延在部の前記下部は、仙骨と係合するようになっている、請求項 1 4 に記載のインプラント。

【請求項 2 0】

前記第 1 および第 2 の延在部の前記下部は、隣りの棘突起よりも小さな棘突起を有する骨と係合するようになっている、請求項 1 4 に記載のインプラント。

【請求項 2 1】

前記第 1 および第 2 の延在部の前記下部は下椎骨と係合するようになっている、請求項 1 4 に記載のインプラント。

【請求項 2 2】

脊柱における隣り合う椎骨の棘突起間に配置するためのインプラントであって、

第 1 の端部と、第 2 の端部と、前記第 1 の端部から前記第 2 の端部に延びる長手方向軸線とを有するスペーサであり、長手方向に延びる側壁を有するとともに、前記棘突起に当接して前記棘突起を離間関係に維持するようになっている上面および下面とを有し、前記上面および前記下面が前記棘突起間の所定の最小間隔に対応する距離だけ離間されるようになっている、スペーサと、

隣り合う椎骨の前記棘突起とほぼ並行して位置するように前記長手方向軸線を横切って前記スペーサから突出する第 1 の延在部であり、下部および前記下部に対して外側に広げられた上部を有し、前記棘突起間の最大間隔を制限するために前記棘突起と係合可能である第 1 の延在部と、

を備えるインプラント。